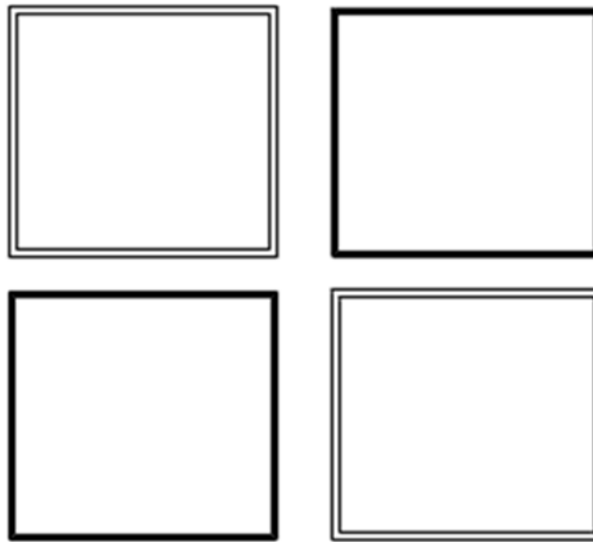


令和 4 年度年間指導計画 (3 年生用シラバス)



富山県立高岡工芸高等学校

■ 目 次 ■

地歴公民	_____	1
理 科	_____	3
保健体育	_____	5
工業（機 械 科）	_____	7
工業（電子機械科）	_____	8
工業（電 気 科）	_____	9
工業（建 築 科）	_____	1 0
工業（土木環境科）	_____	1 1
工業（工 芸 科）	_____	1 3
工業（デザイン・絵画科）	_____	1 6

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	地歴公民科	科目名	日本史A	教科書	高校日本史A 新訂版 実教出版 (7実教 日A309)	学年組	31.32.33. 35.36.37H (選択者)	単位数	2
年間目標	1.近現代史を中心としたわが国の歴史を、世界史的な視点をふまえ、わが国を取り巻く国際環境などに関連づけて考察する。 2.歴史的な思考力を培うとともに、国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1編 私たちの時代と歴史	・「日本史A」を学ぶ意義や学習の到達目標を説明し 学習の進め方や評価の方法を理解する。		
5	第2編 第1章 近代への転換	・江戸時代の振り返りの時間を取りながら、幕末の国際情勢と対 外関係を関連づけながら理解する。 ・江戸時代後期の社会、学問・思想を理解し、近代文化との結び つきを考察する。 ・開国に至る経緯について、幕府の対応もふまえて理解する。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断 する。	中 間
6	第2章 大日本帝国の形成	・明治政府の諸政策（教育・産業政策）について理解する。 ・明治政府や自由民権運動の動向に注目し、憲法の制定と国会開設 について理解を深める。		
7	考查実施と学習内容の確認		授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断 する。	期 末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	第3章 大日本帝国の展開	・日清・日露戦争から日本の対外的な立場を踏まえ、背景となる 国内外の情勢を考察し、両戦争を理解する。 ・資本主義の進展に伴う産業構造の変化と社会問題の発生について 理解する。 ・明治期における生活様式の変化や芸術・文化の展開について理解 する。		
10	第4章 両大戦間の世界と日本	・政党政治の展開と、デモクラシー思潮の高まりについて理解する。 ・第一次世界大戦の概要と日本にもたらした影響について理解する。 ・経済の発展や教育の普及などに伴い、大衆文化が形成されたことを 理解する・第一次世界大戦以降の不況と世界恐慌による経済危機について 理解する。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	中 間
2 学期授業週数		1 2		

11	第5章 15年戦争と日本・アジア	・軍部の台頭と政治状況の変化、国際関係の変化に注目して太平洋戦争に至る過程を考察する。 ・文化・思想の統制強化や戦時下の国民生活について理解を深める。 ・アジア諸国をはじめとして日本が世界に及ぼした影響について理解する。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	期 末
12	考查実施と学習内容の確認			
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第6章 戦後改革と高度経済成長	・戦後保障を理解する。 ・日本国憲法の制定過程や内容の特徴を考察する。 ・国民生活の実態と経済復興について理解する。 ・占領政策の転換とサンフランシスコ平和条約締結に至る背景と経緯について理解する。		
2		・独立後の国内政治と外交の推移について理解する。 ・高度経済成長の実態と歴史的な意義について考察する。		
3	第7章 現代の世界と日本	・現代の日本が抱える諸問題について、世界から見た日本の立場や役割を考察する。		
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・日本史Aの学習に関心を持って取り組み、理解しようとしているか。 ・授業に対して意欲的な姿勢がみられるか。
思考・判断・表現	・歴史の展開から、日本を取り巻く国際環境などの課題を見いだし、多面的に考察できるか。 ・プリントを上手に活用しているか。 ・考察した過程や結果を適切に表現しているか。
資料活用の技能	・的確に諸資料を収集・選択し、活用しているか。
知識 ・ 理解	・近現代の歴史について基本的な知識が身についたか。 ・基本的な知識を世界史や現代社会など過去に学習した科目に関連づけることができるか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	地歴公民科	科目名	地理 A	教科書	地理 A 東京書籍 (2 東書 地 A307) 新詳高等地図 帝国書院 (46 帝国 地図 310)	学年組	31～37H (選択者)	単位数	2
年間目標	1 現代社会の地理的な諸課題を広く理解する。 2 現代社会の地理的認識を養い、地理的な見方考え方を養う。 3 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1編 現代世界の特徴と動向 1 章 地球儀や地図からとらえる世界 2 章 結びつく現代社会	・球面で世界を考え、時差や様々な世界地図について考える。 ・新しい地図表現に触れ、地図に親しむ。 ・国家の定義を知り、国境・領土問題について理解する。 ・国家を超えた結びつきについて知り、各国の繋がりについて理解する。	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	中 間
5	中間考查の実施と学習内容の確認	・中間考查後、解答の復習を行い、知識の定着を促す。		
6	第2編 世界の生活文化の多様性 1 章 世界的視野から見た自然環境と文化	・様々な地形とその成因について知る。 ・地形の特徴をふまえ、生活の違いについて考える。 ・世界各地の気候の成因について知る。 ・世界各地の気候の違いと人々の生活について理解する。	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	期 末
7	期末考查の実施と学習内容の確認	・期末考查後には、学習した内容の理解を確かなものにするため解答の確認、知識の定着を行う。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	2 章 諸地域の生活・文化と環境	・世界の国々の地理的特徴を理解する。 ・世界の人々の生活について学習し、その地域性を知る。 ・世界と日本とのつながりについて理解する。	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	中間考查の実施と学習内容の確認	・中間考查後、解答の復習を行い、知識の定着を促す。		

11	3 編 深刻化する地球的課題とその解決策	・食料問題や人口問題など世界的な課題について理解する。 ・世界的課題への解決の取組について理解する。 ・資源・エネルギー問題について理解する		
12	期末考査の実施と学習内容の確認	・期末考査後には、学習した内容の理解を確かなものにするため解答の確認、知識の定着を行う。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第4編 身近な地域と地理的課題	・身近な地図に触れ、地図を読み解くことができる。 ・さまざまな地図に触れ、それぞれの特徴を理解する。	授業への取り組み方、提出物および考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	1 章 身近な地域と地図 2 章 自然環境と防災	・自然災害のそれぞれの特徴を理解し、防災意識を高めることができる。		
3	3 章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査 学年末考查の実施と学習内容の確認	・地図等を活用し、身近な地域の調査を行う。 ・学年末考查では、1 年間の学習で興味・関心を深めたことについて学習内容をまとめる。		
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・地理の授業に際し、興味・関心を持ち、主体的・自主的に授業に参加しているか。 ・発問に対し、真摯な態度で考え積極的な姿勢を見せているか。 ・プリントの穴埋めや、ノートの整理・工夫に意欲的であるか。
思考・判断・表現	・多くの学習内容を、自分なりに整理して考えようとしているか。 ・自分独自の視点で、様々な地理的作業を行っているか。 ・自然環境の違いにより人々の生活に違いがあることを理解し、判断しているか。
資料活用の技能	・図表から必要事項を読み取ることができるか。 ・資料を活用し、導き出した過程や結果を適切に表現しているか。
知識 ・ 理解	・知識として学んだ、地理の基礎や基本的事項が身についているか。 ・自然地理を理解し、その知識を元に各地域の生活について考えることができたか。 ・国際社会に生きる日本人として、世界の地理を正しく理解できたか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	理科	科目名	生物基礎	教科書	104数研 生基 317改訂版新編 生物基礎	学年組	31,32,33,34,35H	単位数	2
年間目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 3 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	第 1 章 生物の特徴 1 節 生物の多様性と共通性	・生物は多様でありながら、共通性があることを理解する。 ・生物の共通性の由来を理解する。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断 する。	中 間
5	2 節 エネルギーと代謝 3 節 光合成と呼吸	・生物に共通する特徴のうち、すべての生物が細胞から成り立っていることを理解する。 ・細胞が独自の機能をもついろいろな細胞小器官から成り立っていることを学習する。 ・原核細胞と真核細胞の基本的な違いについて学習する。 ・単細胞生物と多細胞生物の存在を考察させ、からだを構成する細胞は一樣ではないことを理解する。		
	第 2 章 遺伝子とそのはたらき 1 節 遺伝情報と DNA	・DNAの構造や性質を、研究史とともに学習する。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。		
6	2 節 遺伝情報の発現 3 節 遺伝情報の分配	・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解する。 ・DNAの複製は細胞周期の間期に行われることを学習する。 ・生命現象にはタンパク質が関わっており、それらがDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解する。 ・体内環境が一定の範囲に保たれていることを理解する。		期 末
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	第3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境としての体液	・体液濃度の調節により、体内環境が保たれていることを理解する。 その際、血液凝固や腎臓の塩類濃度調節について触れる。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	2節 腎臓と肝臓による調節 3節 神経とホルモンによる調節	・ヒトの血糖量や体温の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解する。 ・調節のしくみについて理解させる際、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。		

11	4 節 免疫	- 細胞が病原体の侵入を防ぐために、異物を認識し、排除するしくみを理解する。 - 免疫に関わる細胞について取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解する。 - ヒトの身近な免疫疾患について学習する。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	期 末
12	第 4 章 植生の多様性と分布 1 節 植生とその成り立ち 2 節 植生の移り変わり 3 節 気候とバイオーム	- 陸上には、草原や森林などの様々な植生があることを学習する。 - 植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解する。 - 環境形成作用により土壌が形成されることで遷移が進行することを学習する。 - バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適応していることを理解する。		
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
1	第5章 生態系とその保全 1節 生態系とその成り立ち	・生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	2節 物質の循環とエネルギーの流れ 3節 生態系のバランスと保全	・生態系において物質が循環すること、およびそれに伴ってエネルギーが移動することを理解する。 ・炭素循環および窒素循環の過程を理解する。 ・生態系のバランスについて学習する。 ・生態系の保全の重要性について認識する。		
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	理科	科目名	地学基礎	教科書	高等学校 改訂 地学基礎 第一学習社 183 第一 地基 310	学年組	31,32,33,34,35H	単位数	2
年間目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1章 宇宙における地球 第1節 宇宙の構成	・恒星などの集団である銀河が分布している宇宙について、その誕生と現存のすがたを理解させる。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断 する。	中 間
5	第2節 惑星としての地球	・恒星の一つである太陽について、表面付近に見られる現象、エネルギー源及び進化について理解させる。 ・地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す環境をもつ惑星となった過程を理解させる。		
6	第2章 活動する地球 第1節 地球の姿	・地球の形の特徴と大きさについて、観察や測定の結果などから理解させる。 ・地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解させる。		
7	第2節 火山活動と地震	・プレートの分布と運動の様子や、プレート運動によって大地の形がどのように形成されるかについて理解させる。 ・火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させる。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断 する。	期 末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	第3章 移り変わる地球 第1節 地層や岩石と地質構造	・地層が形成される仕組みと地層や岩石に見られる地質構造について理解させる。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断 する。	中 間
10	第2節 地球環境と生物界の変遷	・古生物の変遷などに基づいて地質時代が区分されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかを理解させる。		

11	第4章 大気と海洋 第1節 地球の熱収支	・大気の構造の概要を理解させ、地球全体として大気を通して出入りする太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解させる。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	期 末
12	第2節 大気と海洋の運動	・緯度によって太陽放射の受熱量が異なること及びそのことで生じている大気の大循環や海水の運動により、地球規模で熱が輸送されていることを理解させる。		
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第5章 地球の環境 第1節 地球環境の科学	・人間生活と関連している地球規模の自然環境の変化を科学的に考察させる。	授業への取り組み方、提出物および 考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	第2節 日本の自然環境	・日本における自然環境が人間生活と深く関わっていることを考察させる。		
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・自然の事物や事象に関心を持ち、実験や観察にも積極的に取り組んでいるか。 ・チームワークに配慮し、実験や観察に積極的に取り組んでいるか。 ・課題の提出期限を守り、内容も正確を期したものとしているか。
思考 ・ 判断・ 表現	・中学校理科との関連を考慮しながら、発展的に規則性や相違点を発見し、自らの考えを導き出すことができるか。 ・基本的な学習内容を整理・整頓し、科学的な見方や考え方で課題に取り組むことができるか。 ・実験のデータを整理して得られた結果から、事象を論理的に考察することができるか。 ・学習内容を活かして、社会や生活との関連を考えられるか。
観察・実験の技能	・各項目の学習活動と関連して、観察や実験の基本操作を習得しているか。 ・観察や実験のデータの取り方や処理が適切であるか。 ・観察や実験したことを自分の考えでまとめたり、調べたことを整理したりしてレポートにし、発表できるか。
知 識 ・ 理 解	・地学的な事物・現象についての原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身につけているか。 ・学んだ内容が関連づけて整理され定着しているか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	保健体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ ２０２０	学年組	３年全女子	単位数	２
年間目標	(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	体育理論 体づくり運動 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。 また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付けさせる。走跳投の理想的な技術を理解し、実践をとおして個人の記録向上を目指させる。 球技では、基本的なストロークを身に付けさせラリーが続けられるようにさせる。また、ルールを覚えてゲームで勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	1 スポーツテストの記録、実施種目のスキルテスト（授業中に実施）、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト40%、スポーツテスト記録30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行う。	
5	陸上競技			
6	ソフトテニス バドミントンより 柔道 剣道 より1種目選択			
7	スポーツテスト			
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	体育理論 体づくり運動	球技では、基本的なストロークを身に付けさせラリーが続けられるようにさせる。また、ルールを覚えてゲームで勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。 ダンスではイメージにふさわしい独創的な表現ができるようにさせまとまりのある作品づくりをする楽しさや喜びを体験させる。	1 実施種目のスキルテスト（授業中に実施）、授業への参加の仕方や態度で評価する。 2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60％、授業への参加の仕方や態度などで40％程度の配分で行う。	
10	ソフトテニス バレーボール ソフトボール			
11	柔道 剣道			
12	より 2 種目選択			
2 学期授業週数				

３学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
1	体育理論 体づくり運動	集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	１ 実施種目のスキルテスト（授業中に実施）、授業への参加の仕方や態度で評価する。 ２ 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
2	バドミントン バスケットボール 卓球			
3	柔道 剣道 より１種目選択			
３学期授業週数		８	年 間	３５

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。
思 考 ・ 判 断	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
運 動 の 技 能	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	保健体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ ２０２０	学年組	３年全男子	単位数	２
年間目標	(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

１学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	体育理論 体づくり運動 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行わせる。 体力を高める運動も行い、体力の向上を目指させる。	1 スポーツテストの記録、実施種目のスキルテスト（授業中に実施）、授業への参加の仕方や態度で評価する。	
5	陸上競技 バレーボール・柔道・剣道 より１種目選択	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	2 学期全体の評価は、主にスキルテスト40%、スポーツテスト記録30%、授業への参加の仕方や態度などで30%程度の配分で行う。	
6	スポーツテスト	また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行わせる。		
7				
1 学期授業週数		1 2		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	体育理論 体づくり運動	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを体験させる。	1 実施種目のスキルテスト（授業中に実施）、授業への参加の仕方や態度で評価する。	
10	ソフトボール サッカー	また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行わせる。	2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
11	バスケットボール ソフトテニス			
12	柔道 剣道 より２種目選択			
2 学期授業週数		1 5		

３学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
1	体育理論 体づくり運動	ボールなどを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。	1 実施種目のスキルテスト（授業中に実施）、授業への参加の仕方や態度で評価する。	
2	バスケットボール バドミントン 卓球 柔道 剣道 より１種目選択	また、武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行わせる。	2 学期全体の評価は、主にスキルテスト60%、授業への参加の仕方や態度などで40%程度の配分で行う。	
3				
3 学期授業週数		8	年 間	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。
思 考 ・ 判 断	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
運 動 の 技 能	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作教材	学年組	３１Ｈ	単位数	３
年間目標	１ 環境の整備を心がけ、危険を予知し、安全作業に徹する態度を養う。 ２ 課題研究で学んだことや調べたことをレポートにまとめ提出する。 ３ 工業技術に関する興味・関心を高め、広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身につける。								

１学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
４	各班にて設計・製作	テーマの設定・調査研究を自主的に実施し、製作準備を進める。	活動計画書 レポート提出	
５		安全に機械・工具を使用し、様々な加工を行う。		
６		問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。		
７	各班にて設計・製作	問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方 や態度などで 評価します。	
１学期授業週数		１２		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
９	各班にて設計・製作	中間まとめとして、作品の完成および展示用パネルの製作を行う。	活動計画書 レポート提出	
10	尚美展での作品展示	尚美展の作品として、展示を行う。		

11	各班にて設計・製作	作品を完成させ、報告書を作成する。 製作の過程をまとめ、発表用資料の製作を行う。	レポートの内容、課題研究への参加の仕方や態度などで評価します。	
12	作品の完成 レポートの製作			
2 学期授業週数		1 5		

３学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	プレゼンテーション作成	作品および研究内容の発表を行う。		下記の４つの観点から評価した １学期の成績、 ２学期の成績及び ３学期の成績を 総合し、年間の 学習成績とします。
2	レポートの完成	レポート製作およびプレゼンテーションを実践することにより、研究・製作のまとめを行う。		
3				
３学期授業週数		８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	工業に関する技術について関心を持ち、自らの考えを実現するために意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、自主的な態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、幅広い知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、成果を的確に表現・発表することができるか。
技 能	安全や環境に配慮し、実際の作業を合理的に計画し、適切に処理することができるか。
知 識 ・ 理 解	工業の各分野に関する知識を身に付け、工業の発展と環境との調和のとれた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作プリント等に対応	学年組	３２Ｈ	単位数	３
年間目標	１環境の整備を心がけ、危険を予知し、安全作業に徹する態度を養う。 ２課題研究で学んだことや調べたことをレポートにまとめ提出する。 ３工業技術に関する興味・関心を高め、広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身につける。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	小班に分けて課題研究を実施 ・研究実施計画の検討 ・各班にて設計・試作 ・各班にて設計・試作	テーマの設定・調査研究を自主的に実施し、製作準備を進める。	・活動報告書 ・レポート提出 レポートの内容、課題研究への参加の仕方 や態度などで評価します。	
5		安全に機械・工具を使用し、様々な加工を行う。		
6		問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。		
7		問題点の解決に努め、班員が協力して作業に取り組む姿勢を身に付ける。		
		休業中の計画を立て、自主的な製作活動を行う。		
1 学期授業週数		1 2		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
９	各班にて製作・改良 尚美展での作品展示	中間まとめとして、作品の完成および展示用パネルの製作を行う。	・活動報告書 ・レポート提出	
10		尚美展の作品として、展示を行う。		

11	各班にて製作・改良 作品の完成 レポートの作製	作品を完成させ、報告書を作成する。 製作の過程をまとめ、発表用資料の製作を行う。	レポートの内容、 課題研究への参加 の仕方や態度など で評価します。	
12				
2 学期授業週数		1 5		

3 学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）		評 価 方 法	考查 範囲
1	プレゼンテーション製作 レポートの完成	作品および研究内容の発表を行う。 レポート製作およびプレゼンテーションを実践することにより、研究・製作のまとめを行う。		下記の 4 つの観点から評価した 1 学期の成績、2 学期の成績及び 3 学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。	
2					
3					
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	工業に関する技術について関心を持ち、自らの考えを実現するために意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、自主的な態度を身に付けているか。
思考 ・ 判断 ・ 表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、幅広い知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。
技 能	安全や環境に配慮し、実際の作業を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に発表することができるか。
知 識 ・ 理 解	工業の各分野に関する知識を身に付け、工業の発展と環境との調和のとれた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作テキスト	学年組	３３H	単位数	２
年間目標	・電気を核とした工業に関する作品を製作する活動を通して、工業に関する知識と技術の深化、総合化を図る。 ・企画、製作、発表、報告書の作成そして学習活動の振り返りを通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。								

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4 5 6 7	1 企画 2 製作	1-1 グループを作り、各自の課題テーマの設定する 1-2 製作品の到達目標を設定する 1-3 製作品をパーツ分けする 1-4 使用材料を考える 1-5 製作工程を考える 2-1 各パーツを製作する 2-2 各パーツの性能試験する	取り組み内容が課題解決に繋がっているか 適切な作業を積極的に行っているか	
1学期授業週数		1 2		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学 習 の ね ら い (内 容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9 10 11 12	2 製作	2-3 パーツを組み合わせる 2-4 総合的な制御方法を考える 2-5 尚美展で中間発表 2-6 今後の取り組み内容を整理する 2-7 総合特性試験をする 2-8 製作品を改善する	取り組み内容が課題解決に繋がっているか 適切な作業を積極的に行っているか	
2学期授業週数		1 5		

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学 習 の ね ら い (内 容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
1 2 3	3 報告書作成 4 発表	3-1 学習内容を確認する 3-2 製作品の良いところ、改善点を考える 4-1 製作品の内容を適切に人に伝える 4-2 自分の学習活動を適切に人に伝える	取り組み内容が課題解決に繋がっているか 適切な作業を積極的に行っているか	
3学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・課題解決に向けて、積極的に考えて製作活動を行っているか ・グループの一員として、責任をもって作業しているか
思考・判断・表現	・課題の問題点を見つけ出せるか ・複数の視点から課題解決方法を見つけようとしているか
表現	・正確かつ完全に道具を使っているか ・自分のアイデア、考えを表現し、相手に伝えているか
知 識 ・ 理 解	・課題解決のために必要な工業的な知識を使っているか ・適切な実験方法を用いることができるか

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作教材	学年組	34H	単位数	3
年間目標	１ 建築について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身につける。 ２ 建築に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき解決する力を養う。 ３ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								

1 学期						
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲		
4	・ 企画 ・ 計画 ・ 制作	グループを決め、研究のテーマを設定する。 ・ グループごとに研究目標を設定する。 ・ グループごとに研究計画を立案する。 ・ 研究計画に沿って作品を制作する。	課題への取り組み方、提出物および理解度を総合的に判断する。			
5	・ 研究課題の報告書の作成 ・ 発表	・ 研究した内容について報告書もしくはプレゼンボード等を作成する。 ・ 研究した内容についてまとめ、発表を行う。				
6	研究テーマ ○外部建築設計競技（コンペ）作品の計画及び制作 とやま県産材住宅設計コンペ 北陸の家づくり設計コンペ 高校生の「建築甲子園」 富山県デザイン展 各大学（日本工業大学、 7 日本大学、九州産業大学、 愛知産業大学等）が主催する 建築設計競技 等 ○既存建築物の模型制作	・ 外部建築設計競技（コンペ）を対象とした作品制作(自由設計) 〈スケジュール〉 1． テーマ、設計条件の検討 2． コンセプト、構想、エスキスの検討 3． 図面の下書き、詳細部検討 4． 模型、パース作成 5． 図面の仕上げ、着彩 ・ 既存建築物、あるいは歴史的建築物の模型制作を行う。 〈スケジュール〉 1． 対象建築物の選定 2． 測量もしくは寸法の検討 3． 設計図作成 4． 模型制作				
1 学期授業週数		1 2				

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
9	○木工作品の制作	・木材等を用いて、作品を制作する。 〈スケジュール〉 １．制作物の検討・決定 ２．寸法の検討 ３．設計図作成 ４．作品制作	課題への取り組み方、提出物および理解度を総合的に判断する。	
10				

11	○自由設計作品の制作	・大規模建築物(図書館、学校、美術館など)の自由設計 〈スケジュール〉 1. テーマ、設計条件の検討 2. コンセプト、構想、エスキスの検討 3. 図面の下書き、詳細部検討 4. 模型、パース作成 5. 図面の仕上げ、着彩	課題への取り組み方、提出物および理解度を総合的に判断する。	
12		上記のような研究テーマを参考に2学期まで作品制作に取り組む。		
2学期授業週数		15		

３学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
1	・課題研究発表会の準備	・パワーポイント等を活用して発表用原稿を作成する。	課題への取り組み方、提出物および理解度を総合的に判断する。	
2	・課題研究発表会	・建築科1,2年生及び外部講師を招いて、各自の課題研究作品を発表し、講評を受ける。		
3				
３学期授業週数		８	年間授業週数	３ ５

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	建築の設計から施工までの各分野に興味・関心をもち、課題解決や作品制作の各過程で意欲的かつ主体的に取り組む姿勢、態度を身につけている。また、調査研究においてはテーマを理解し、系統だてた取り組みができています。
思考・判断・表現	建築の各分野に関する知識・技術について基礎・基本を理解したうえで、作品制作に工夫を加え、より発展的に進める力や創造的で高度な作品制作を行うための応用力を身につけている。
技能	建築の設計から施工までの各段階における基礎的な技術を理解し、作品制作に必要な基本的な技能を身につけている。また、各工程で必要な材料や道具を適切かつ合理的に使用している。
知識・理解	建築に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、作品制作の各過程で必要な手順を理解している。また、工業の発展と環境の調和のとれた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解している。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	7実教 335 測量 7実教 364 土木基礎力学 1 7実教 365 土木基礎力学 2	学年組	３５H 土木工学コース	単位数	３
年間目標	・土木や環境に関する課題を設定し、その問題解決を図る学習を通して専門的な知識や技術を習得する。 ・問題意識を常に持ち、自ら考えて実習に取り組むことにより実践的な力を高める。								

１学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	・班編制、文献調査 ・器械や実験機器の確認 ・研究課題の決定	・土木環境の学習内容をもとに、興味、関心のある事項や、既習事項でさらに深く学びたい課題を設定できる。	授業への取り組み方を総合的に判断する。	
5	・作品製作、実験の方法を考える。	・班員や指導教員と意見交換し、必要な器械や材料の選定および作業計画を立案できる。		
6	・器械や実験機器、道具、材料の準備 ・製作、実験			
7				
１学期授業週数		１２		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	・製作、実験	・自分なりに考えて創意工夫し、意欲的に製作や研究に取り組むことができる。	授業への取り組み方を総合的に判断する。	
10				

11	・研究結果のまとめ	・必要に応じてデータを処理し、図表やグラフがきちんと描ける。	授業への取り組み方を総合的に判断する。	
12	・結果や作品に対する考察、反省	・研究結果に対する考察がしっかりとできる。		
2 学期授業週数		1 5		

３学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	・論文の作成 ・課題研究要旨集の作成 ・発表内容をパワーポイントでまとめる。	・研究内容を論文にまとめることができる。 ・プレゼンテーション用スライドを作成することができる。 ・より効果的なプレゼンテーションをするための創意工夫ができる。	授業への取り組み方を総合的に判断する。 課題への成果、プレゼン、自己評価を総合的に判断する。	
2	・発表練習 ・科内課題研究発表会 ・課題研究発表会	・聞き手にしっかり理解してもらえるように発表できる。		
3				
３学期授業週数		８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	自ら設定した課題を解決しようとする積極的な態度が見られるか。
思考・判断・表現	作品製作や実験方法について自ら考え創意工夫する能力を身につけているか。
技 能	作業を合理的に計画し、適切に処理するとともに、研究結果を適切にまとめ、内容をわかりやすく発表できるか
知 識 ・ 理 解	研究内容や実験方法に関する具体的な知識を身に付け、現代社会における土木環境の意義や役割を理解しているか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	自作プリント等で対応	学年組	３５H 環境化学コース	単位数	３
年間目標	・環境や化学に関する課題を設定し、その問題解決を図る学習を通して専門的な知識や技術を習得する。 ・絶えず問題意識を持ち、自ら考えて実習に取り組むことにより実践的な力を高める。								

１学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	・ 班編制、文献調査	・ 土木環境科の学習内容をもとに、興味、関心のある事項や、既習事項でさらに深く学びたい課題を設定できる。 ・ 班員や指導教員と意見交換し、必要な器械や材料の選定および作業計画を立案できる。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	
	・ 器械や実験機器の確認			
	・ 課題の決定			
5	・ 作品製作、実験の方法を考える。			
	・ 機械や実験機器、道具、材料の準備			
6				
7				
1 学期授業週数		1 2		

２学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
９	・製作、実験	・自分なりに考えて創意工夫し、意欲的に製作や研究に取り組むことができる。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	
10	・研究結果のまとめ	・必要に応じてデータを処理し、図表やグラフがきちんと描ける。		
	・結果や作品に対する考察、反省	・研究結果に対する考察がしっかりとできる。		

11	・製作、実験	・自分なりに考えて創意工夫し、意欲的に製作や研究に取り組むことができる。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	
12	・研究結果のまとめ ・結果や作品に対する考察、反省	・必要に応じてデータを処理し、図表やグラフがきちんと描ける。 ・研究結果に対する考察がしっかりとできる。		
2 学期授業週数		1 5		

３学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
１	・論文の作成 ・課題研究要旨集の作成 ・発表内容をパワーポイントでまとめる。 ・発表練習	・研究内容を論文にまとめることができる。 ・プレゼンテーション用スライドを作成することができる。 ・より効果的なプレゼンテーションをするための創意工夫ができる。	授業への取り組み方、提出物および考査の結果を総合的に判断する。	
２	・科内課題研究発表会	・聞き手にしっかり理解してもらえるように発表できる。		
３				
３学期授業週数		８	年間授業週数	３５

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・自ら設定した課題を解決しようとする積極的な態度が見られるか。
思考・判断・表現	・作品製作や実験方法について自ら考え創意工夫する能力を身につけているか。 ・研究結果を適切にまとめ、内容をわかりやすく発表できるか。
技 能	・作業を合理的に計画し、適切に処理できるか
知 識 ・ 理 解	・研究内容や実験方法に関する具体的な知識を身に付け、現代社会における環境化学の意義や役割を理解しているか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究	教科書	実教・工業３６９ インテリア製図	学年組	36H	単位数	3
年間目標	1 金属工芸について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連づけられた技術を身に付けるようにする。 2 金属工芸に対する課題を発見し、工芸に携わる者として独創的に解決策を探求し、創造的に解決する力を養う。 3 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工芸の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	フルモールド法(FM法)についての理解	鋳造原型の種類を確認し、FM方の利点を理解する。(発砲スチロール利用)	授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
5	デザイン 模型制作 原型制作	・他の鋳造原型と比較した上でのFM法に適したデザインを考える。 ・現存する形ではなく、自分の創造した造形を展開することによって想像力を養う。 ・形を確認する。		
6	鋳型作り及び鋳造	・発砲スチロールの特性を理解しながら造形を行う。 ・アールまたは直線の美しさを探求する。 ・中子の意味合いを理解させる。 ・同じフルモールドである鋳原型との比較をする。		
7	仕上げ	・鋳造における鋳型の重要性を認識する。 ・鋳型の種類とガス型原型の違いを理解する。		
		・鑿、グラインダー、ベルトサンダー、オビタルサンダー等の道具や機械の安全な使用法を確認する。 ・仕上げの種類を確認し、作品に適した仕上げ方法を選択できるようにする。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
9	照明器具の製作	・鍛金・鋳金の技法を利用した照明器具を考える。 ・平面と立体造形の違いを理解する。 ・各技法(適した)安全な作品制作を行う。 ・デザイン、模型、原型、鋳造、仕上げる。	授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
10	デザイン 模型づくり 制作 鋳金			

11	卒業制作	二年半で学んだ技法・技術を利用し、抽象作品・具象作品・具象製品を制作する。 ・デザイン、模型、原型、鋳造、仕上げ 抽象・具象に関わらず現在まで学んだ技法を利用する。 原型は石膏・木型・鋳型・発泡型等 外型は生型・ガス型等 材質はアルミニウム・ブロンズ・ブラス等	授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
	鋳金			
	鍛金			
	彫金			
2 学期授業週数		1 5		

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
1	卒業制作	・抽象・具象に関わらず現在まで学んだ技法を利用する。 ・絞り・打ち出し・切り抜き・溶接等を利用する。 ・材質はアルミニウム・純銅とする。	授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
2	鋳金 鍛金 彫金	抽象・具象作品・立体・平面作品を毛彫り鑿・片切り鑿等を利用し制作する。		
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・工芸作品の制作に興味・関心を持ち、意欲的に態度を身につけているか、実習への参加の仕方や態度、課題への取り組み状況、課題提出により評価する。
思考・判断・表現	・工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より良い作品への応用力を身につけているか。 ・作品の構想について、独創性、創造性はあるか。
技 能	・製作にあたって使用する工具や材料を安全且つ適切に使用しているか。 ・各工程に求められる技能を的確に選択して行うことができるか。
知 識 ・ 理 解	・各制作工程を進める上での材料や用具に対する知識を身につけ、制作への活用に生かしているかを、課題の提出や作品（課題）の出来具合から評価する。

令和4年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究(漆工芸)	教科書	海文堂 344 デザイン技術	学年組	36H	単位数	3
年間目標	1 伝統的な工芸に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の進化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 2 漆工芸に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に創造し、応用する能力と態度を育てる。 3 多様な加飾の表現技法に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。								

1 学期				
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
4 7	【前期の課題】(制作品) 1 「蒔絵小箱」 2 「銘々皿」 3 「 」自由課題1 4 「 」自由課題2 【基本工程】(各課題共通) 1 木地固め 2 布貼り 3 錆付け 4 下塗り・下塗り研ぎ 5 中塗り・中塗り研ぎ 6 上塗り 7 上塗り研ぎ 8 胴擦り 9 呂色仕上げ 10 磨き仕上げ	【基本工程】 1 木地固め 木地表面の毛羽立ちをサンドペーパーを使い平滑にし、次に木地の硬度を高めるために、木地の表面全体に生漆を刷毛で塗る。 2 布貼り 木地の曲がりやひよりを防止するために、敷板の裏表の面に糊漆(花粉＋生漆)を使い、寒冷紗の布を貼る。 3 錆付け 錆漆(砥の粉＋生漆)を寒冷紗の布目を埋めるようにして、ヘラで丁寧に塗る。できるだけ均一で平滑な面を作るように気をつけながら、3回繰り返して行う。 4 下塗り・下塗り研ぎ 平滑な面ができた後、刷毛を使い黒呂色漆を全面に塗る。乾燥後、耐水ペーパー(600番程度)を使って表面が平滑になるように研ぐ。 5 中塗り・中塗り研ぎ 下塗りと同様の作業を行う。 6 上塗り 丁寧に濾した黒呂色漆を、刷毛を使って全面に塗る。 7 上塗り研ぎ 乾燥後、耐水ペーパー(1500番程度)を使って表面が平滑になるように細心の注意を払いながら研ぐ。 8 胴擦り 砥の粉と菜種油を使い、表面を磨いて半艶状態に仕上げる。 9 呂色仕上げ 10 磨き仕上げ 乾燥後、呂色炭、角粉と菜種油を使って丁寧に磨き上げ艶を出す。必要に応じ3回程度繰り返す。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。	
1学期授業週数		12		

2 学期				
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
9 12	【加飾技法】 1 変わり塗り技法 2 青貝塗り技法 3 溜塗り技法 4 蒔絵(銀・錫粉)技法 5 色漆による技法	【加飾技法】 作品の制作意図に応じた多様な加飾の技法を取り上げ、実際に活用できるようにする。 1 変わり塗り技法 膠漆に小粒の乾燥餌を使用したり、刷毛目を利用することにより、繊細で自然な文様を研ぎ出す技法。 2 青貝塗り技法 意図する図柄に青貝を切って、裏面に着色可。貼り合わせ作る技法。 3 溜塗り技法 呂色漆の重ね塗りによる透き漆特有の技法。 4 蒔絵(金・銀粉)技法 金粉や銀粉、平目粉を蒔く伝統的な蒔絵技法。 5 色漆による技法 多様な色漆を使用し文様を描き出す技法。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。	
2学期授業週数		15		

3 学期				
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
1 3	【卒業制作】	【卒業制作】 3年間の集大成となる卒業制作と連動して進め、計画的に取り組ませる。 2年間の専攻別履修で習得した制作技能や知識を駆使した作品を制作させる。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。 4つの観点から評価した1学期の成績、2学期の成績及び3学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。	
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎ 評価の観点及び内容	
関心・意欲・態度	工芸作品の制作に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より高度な作品作りへの応用力を身に付けているか。使用する用具や材料に関する知識を理解し適切に扱う能力を身に付けているか。
技 能	工芸に関する基礎的な技能が身に付き、より独創性、創造性に富んだ工作品を制作することができるか。各工程に求められる技能を的確に行うことができるか。
知 識 ・ 理 解	各制作工程を進める上での材料や用具に対する知識を身に付け、制作への活用に生かしているか。

令和4年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	課題研究 (木材工芸)	教科書	201 海文堂 工業343 インテリアエレメント生産	学年組	36H	単位数	3
年間目標	1 伝統的な工芸に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。 2 木材工芸に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に創造し、応用する能力と態度を育てる。 3 多様な加飾の表現技法に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。								

1 学期				
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
4 7	【前期の課題】(木製家具・工芸品) 「自由課題」 【基本工程】(各課題共通) 1 アイデア・制作図の作成 2 材料の選択・木取り 3 切削加工 機械加工、手加工 4 木工旋盤・轆轤加工 5 組立加工	目的に合った家具や工芸品の設計ができる。 【基本工程】 1 制作するために必要な三面図、組立図、組立詳細図などの製図を描くことができる。 2 各材料の特質を理解し、制作する作品に適した材料が選択できる。歩留りや歩増しを考えた無駄のない木取りを理解させる。 3 指物における各種の継手、仕口の特徴を理解し、最も効率のよい接合法を選択活用ができる。各種の鉋を使った、平面、曲面の切削加工ができる。 4 木工旋盤や轆轤の操作法を理解して安全で正確な加工ができる。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。	
1学期授業週数		12		

2 学期				
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
9 12	【基本工程】 6 付帯、仕上げ加工 尚美展にて展示発表	【基本工程】 6 制作した工芸品の付加価値を高めるための塗装や付帯加工について考え、付加価値の高い工芸品の制作ができる。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。	

	【後期の課題】(木製家具・工芸品) 「卒業制作」 【基本工程】(各課題共通) 1 アイデア・制作図の作成 2 材料の選択・木取り 3 切削加工機械加工、手加工 4 木工旋盤・轆轤加工 5 組立加工	二年間の専攻別履修で習得した制作技術や知識を駆使した卒業制作に相応しい作品制作ができる。 三年間の集大成となる作品制作ができる。		
2学期授業週数		15		

3 学期				
月	学習項目(単元名)	学習のねらい(内容)	評価方法	範囲
1 3	【基本工程】 6 付帯、仕上げ加工 課題研究発表会に向け、発表資料を作成する。 科内課題研究会にてプレゼンテーションを行う。	【基本工程】 6 制作した工芸品の付加価値を高めるための塗装や付帯加工について考え、付加価値の高い工芸品の制作ができる。	課題制作への取り組み状況や態度、意欲などで評価する。 課題及び提出作品の取り組みの内容により評価する。 4つの観点から評価した1学期の成績、2学期の成績及び3学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。	
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎ 評価の観点及び内容	
関心・意欲・態度	工芸作品の制作に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	工芸に関する基礎的な技術や知識を活用し、より高度な作品作りへの応用力を身に付けているか。使用する用具や材料に関する知識を理解し適切に扱う能力を身に付けているか。
技 能	工芸に関する基礎的な技能が身に付き、より独創性、創造性に富んだ工作品を制作することができるか。各工程に求められる技能を的確に行うことができるか。
知 識 ・ 理 解	各制作工程を進める上での材料や用具に対する知識を身に付け、制作への活用に生かしているか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業（デザイン・絵画）	科目名	課題研究（プロダクトデザイン）	教科書	２０１海文堂工業３４４「デザイン技術」他、プリント等に対応	学年組	３ ７	単位数	３
年間目標	・工業デザインについてより専門的な知識を、計画的に制作に取り組む姿勢を身につけさせる。 ・使う人の気持ちになってアイデアを練り、試行錯誤しながら使いやすい製品を提案させる。 ・自身のアイデアをより具体的に表現するため必要な技法や知識を身につけさせる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	「デスクライトの提案」 ・課題の説明 ・コンセプト ・アイデア ・市場調査 ・マーケティングリサーチ 5 ・デザイン決定 ・モデリング ・具体的なデザインワーク ・制作（コンセプトパネル およびモデル） 6 ・個々のデザインワーク ・まとめ 7	快適な生活を送るために、必要と思われるデスクライトを 考える。 ・コンセプトを立案する。 ・柔軟な思考で自由にアイデアを出す。 ・主体的に情報や資料を収集する。 ・ラフモデルを作ることで形の必然性を探る。 ・ラフモデルから得られた情報をフィードバックし、詳細な 数値と正確な図面を導き出す。 ・モデリングの役割と種類を学習する。 ・問題点や疑問点を調査する。 ・デザイン方針を基に、具体的なデザインワークを行う。 アイデアスケッチ 試作 作図 ・コンセプトパネル、およびモデルを完成する。	作品および態 度、プレゼンテ ーションによ る評価	
1 学期授業週数		1 2		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
９	デッサン 課題研究	４ 班共通 生徒一人一人が、自身の興味関心や将来の夢などを着眼点とした題材を設定し、意欲的に調査・研究に取り組む姿勢を育て、計画的に問題解決する態度を身につけさせる。		
10				

11	課題研究	制作続き	ワークシートやレポート、プレゼン・発表による評価	
12				
2 学期授業週数		1 5		

3 学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）		評 価 方 法	考査 範囲
1	レポート等の資料作成 発表準備	資料をまとめることで、工程を再確認させ、デザインプロセスについて体感させる。 自身の作品について効果的なプレゼンテーションのあり方について考えさせる。		ワークシートやレポート、プレゼン・発表による評価	
2	科内発表会				
3					
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・意欲をもって授業に参加し、自主的に情報収集や作品制作に取り組んでいるか。
思考・判断・表現	・使う人の気持ちになってアイデアを練り、試行錯誤しながら使いやすい製品を提案することができるか。
技能	・自身のアイデアをより具体的に伝えるため、表現することができるか。また、表現するために必要な種々の技法や知識を身につけているか。
知識・理解	・工業デザインの基礎的な知識と社会における役割を理解し、利用者の存在やそのニーズを意識しながら計画的に制作に取り組むことができるか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業（デザイン・絵画）	科目名	課題研究（視覚伝達デザイン）	教科書	２０１海文堂工業３４４「デザイン技術」他、プリント等で対応	学年組	３ ７	単位数	３
年間目標	・視覚伝達デザインに関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際にデザイン表現に生かす能力と態度を育てる。 ・「伝えたいイメージ」や「制作するものの特徴や役割」をよく考え、効果的なデザインを提案する必要性を体感させる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	視覚伝達デザインコース課題 『公共施設の VI 計画』	題材として、自分の住む市町村に必要と感じる公共施設を設定し、コーポレートアイデンティティの中でも重要な位置にある「VI」についての理解を深め、伝えたいイメージを明確にすること、またそのイメージが一連の流れの中でぶれないことの大切さを体験させる。 ・ CI と VI について ・ イメージの重要性について ・ 取り組む施設の設定、情報収集 ・ コンセプト設定 ・ 制作① ロゴタイプ・シンボルマーク 制作② 封筒・名刺 制作③ 紙袋 制作④ 新聞広告 制作⑤ 仕様書 各制作ごとにアイデアスケッチ、レイアウト、色彩計画等を行ったのち、Mac による制作。 完成、発表、講評	ワークシートや アイデアスケッチ、授業態度、作品、コンセプトによる評価	
5				
6				
7				
1 学期授業週数		1 2		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
９	デッサン	各コース共通		
	課題研究	生徒一人一人が、自身の興味関心や将来の夢などを着眼点とした題材を設定し、意欲的に調査・研究に取り組む姿勢を育て、計画的に問題解決する態度を身につけさせる。		
10				

11	課題研究	制作続き	ワークシートやレポート、プレゼン・発表による評価	
12				
2 学期授業週数		1 5		

3 学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）		評 価 方 法	考査 範囲
1	レポート等の資料作成 発表準備	資料をまとめることで、工程を再確認させ、デザインプロセスについて体感させる。		ワークシートやレポート、プレゼン・発表による評価	
2	科内発表会	自身の作品について効果的なプレゼンテーションのあり方について考えさせる。			
3					
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・視覚伝達デザインに関する専門分野の事項について関心を持ち、主体的に制作に取り組み、完成度の高い作品を完成させようとする態度を身に付けている。
思考・判断・表現	・視覚伝達デザインに関する知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。
技能	・道具の使い方や材料に関する技術・知識を身につけ、創造的な表現に適切に活用している。
知識・理解	・デザインの基礎的な事項について理解し、その知識を活かして、自身の目線から現代社会にある問題点等を見つめ、提案できている。 ・各ツールの役割などを理解し、より人の心をつかむ作品を制作している。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業（デザイン・絵画科）	科目名	課題研究（環境デザイン）	教科書	２０１海文堂工業３４４「デザイン技術」他、プリント等に対応	学年組	３ ７	単位数	３
年間目標	・環境デザインに関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際にデザイン表現に生かす能力と態度を育てる。 ・幅広い発想を促し、そのデザインの実現のためにより深く追求する力を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	「尚美広場待合学習室」を計画する。	幅広い発想を促すことを目的として校地を使い、「尚美広場待合学習室」を考える。 建物外観のパースレンダリングを体験させる。 レンダリングの手順、質感、立体感、空間感の表現方法を身につける。 ・アイデアスケッチ ・三面図 ・パース作図 ・レンダリング ・モデル作成 ・パネル制作B 2 ・プレゼンテーション	授業の取り組み方、アイデアスケッチ、作品を総合的に判断	
5				
6				
7				
1 学期授業週数		1 2		

２学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範囲
９	デッサン	各コース共通		
１０	課題研究	生徒一人一人が、自身の興味関心や将来の夢などを着眼点とした題材を設定し、意欲的に調査・研究に取り組む姿勢を育て、計画的に問題解決する態度を身につけさせる。		

11	課題研究	制作続き	ワークシートやレポート、プレゼン・発表による評価	
12				
2 学期授業週数		1 5		

３学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範囲
１	レポート等の資料作成	資料をまとめることで、工程を再確認させ、デザインプロセスについて体感させる。 自身の作品について効果的なプレゼンテーションのあり方について考えさせる。	ワークシートやレポート、プレゼン・発表による評価	
２	発表準備			
３	科内発表会			
３学期授業週数		８	年間授業週数	３ ５

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・意欲をもって授業に参加し、自主的に情報収集や作品制作に取り組んでいるか。
思考・判断・表現	・様々な視点からアイデアを練り、一貫したコンセプトのもとに作品を構成することができるか。 ・自身のアイデアを伝えるため、表現の工夫をすることができるか。
技能	表現するために必要な種々の技法を身につけているか。
知識・理解	環境デザインの基礎的な知識と社会における役割を理解し、利用者の存在やそのニーズを意識することができるか。

令和４年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業 (デザイン・絵画)	科目名	課題研究 (絵画)	教科書	自主教材など	学年組	37H	単位数	3
年間目標	・絵画表現の為の基礎的知識の理解を深めるとともに、観察力および表現技術の向上を図る。 ・３年間の集大成となるような独創性があり、創造的な作品制作を目指す。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	〈鉛筆デッサン〉	全コース共通 『石膏像上級・円盤投げ』（木炭紙大画用紙） 量感、質感、動勢、空間感について学ぶ。 ・講評会	授業への取り 組み方、提出 物の結果を総 合的に判断す る。	
5	〈油彩画〉	『風景を切り取る』（A4）2回 校内の風景をフレームで切り取り描くことで、 静物画の構図を考える学習につなげる。		
6		『静物画』（F30号）10回 静物を油彩で描くことで、構図や色彩、描写に 関する力を向上させる。 （1）構図 （2）形態 （3）立体感 （4）色彩 （5）質感 （6）描き込み、仕上げ （7）講評 県青少年美術展に出品予定。		
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
9	＜課題研究＞	生徒一人一人が、自身の興味関心を着眼点としたテーマを設定し、意欲的に研究に取り組む姿勢を育て、計画的に取り組む態度を身につけさせる。 ・資料の収集 ・エスキースで構成を検討 ・色彩、質感、空間感等の研究	授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
10				

11	続き			授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
12					
2 学期授業週数		1 5			

3 学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）		評 価 方 法	考査 範囲
1	(2 学期からの継続) 〈レポート等の資料作成〉 〈発表準備〉 〈科内発表会〉	資料をまとめることで、工程を再確認させる。		授業への取り組み方、提出物の結果を総合的に判断する。	
2					
3					
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

◎評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	絵画技術について興味・関心をもち、積極的に絵画制作に取り組もうと努めた。 油彩画に関心がもてた。
思考・判断・表現	絵画の構築性について理解しようと努めた。 絵画制作における様々な発想法、技術に興味をもち、表現する創造的な能力が身についている。
技能	絵画技術の基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。
知識・理解	絵画の基礎的・基本的な技術を身に付け、現代社会における絵画技術の意義や役割を理解している。